

第 105 回福岡県理学療法士学術研修会 拡大症例検討会

日時：令和 5 年 12 月 9 日 9:00~16:00

会場：北九州国際会議場

発表日：12 月 9 日 11:00~11:30

発表形式:対面発表

発表者：松本 崇志 学会参加者：松本 崇志、後藤 稜平、安部 祥司

報告テーマ：「短期間で 2 度の膝関節鏡視下手術を施行し、筋力改善に難渋している症例」

【目的】

近年、膝関節鏡視下手術（以下 AS）を行なった後、再手術を施行する人が増えてきている。今回、9 ヶ月という短期間で 2 度目の AS を施行し、筋力改善に難渋している症例を担当した。膝周囲軟部組織の柔軟性を中心に治療を行ったところ改善したため報告する。

【症例】

40 歳代男性、身長 175.3cm、体重 67.1kg、BMI 21.8kg/m²。主訴は階段昇降時に膝の前側が痛い。中腰姿勢で膝が痛い。職業はマンホール(7kg~10kg)の製造、運搬。当院へ週 4、5 回リハビリ通院。Demand は仕事復帰。

【現病歴】

R3 年 9 月頃、誘因なく右膝痛が出現し、階段昇降や膝の屈伸動作で疼痛。R3 年 10 月 26 日、他院受診した際に X-P、MRI 検査を行い、右膝内側半月板損傷の診断。当院を紹介受診、同様の診断にて手術適応となり、R3 年 11 月 26 日に右 AS 施行。R4 年 5 月 11 日に仕事復帰。その後、仕事上過活動であり再び疼痛増悪。R4 年 8 月 19 日に 2 度目の右 AS 施行。

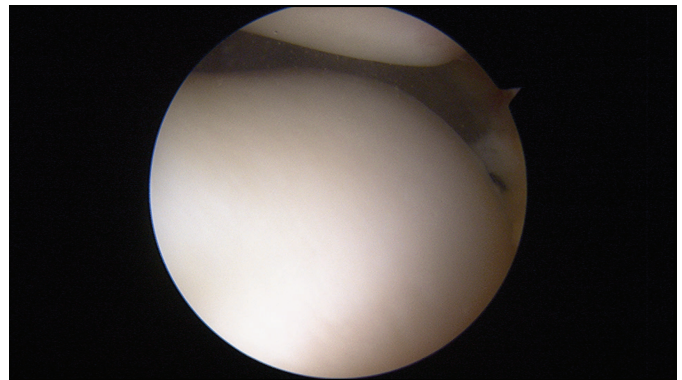
【手術所見】

膝関節鏡視下手術（R3 年 11 月 26 日）

- ・ 膝蓋内側滑膜ヒダの増生→部分切除

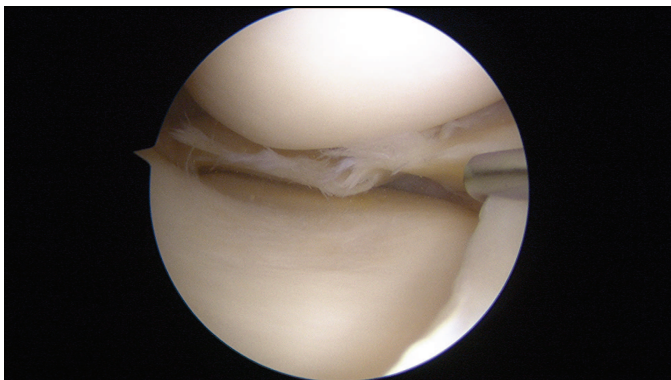


【切除前】



【切除後】

- ・ 内側半月板中節から後節にかけて水平断裂→部分切除



【切除前】

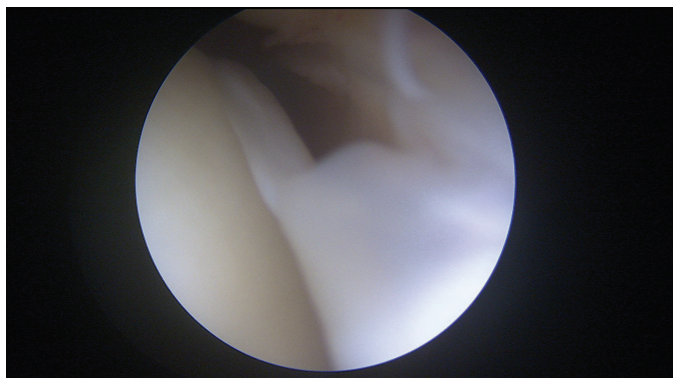


【切除後】

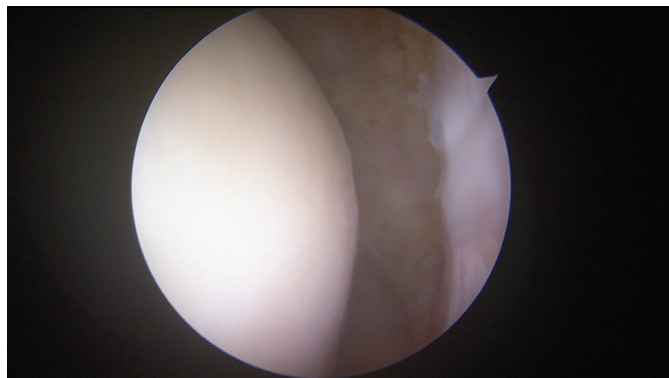
膝関節鏡視下手術（R4年8月19日）

・膝蓋内側滑膜ヒダの増生(榊原分類C型)→部分切除

※半月板に新たな損傷はなし



【切除前】



【切除後】

【理学療法評価】

○膝伸展筋力、徒手筋力計（酒井医療株式会社:mobie）を使用。

	術前	術後 1m	3m	6m	6.5m	術後 1m	3m	6m	10m
右	15.7	43.7	58.6	79.4	20.4	55.4	63.5	54.5	90.1
左	75.4	76	84.5	102.4	103.9	107.9	108.4	107.2	112.5

初回 AS 後からは徐々に筋力増加していき、術側は 79.4 まで増加しました。しかし、術後半年を過ぎたあたりから仕事復帰後の疼痛憎悪により、術側は 20.4 まで急激に低下しました。2 度目の AS 後からも徐々に筋力増加していき、2 度目の AS から 10 ヶ月時点では術側は 90.1 まで増加し、体重比：1.34、健患比：80%まで改善しました。疼痛は Numerical Rating Scale を用いて評価しました。筋力測定時では、初回術後以降では軽度の疼痛を示していましたが、2 度目の術後以降は中等度の疼痛を示していました。踵臀部間距離は 2 度目の AS 後 3 ヶ月では両側ともに軽度の制限がみられ、右膝に疼痛が認められました。しかし、術後 10 ヶ月を経過しても制限・疼痛共に改善みられませんでした。膝蓋骨の可動性は 2 度目の AS 後 3 ヶ月では上下・左右ともに中等度の可動性低下がみられましたが、術後 10 ヶ月では左右方向は改善し、上下方向は軽度の可動性低下が見られるまで改善しました。大腿周径は、2 度目の AS の術前から最大 1.5cm 差があり、術後 5 ヶ月では最大 3.5cm まで差が増大しますが、術後 10 ヶ月では最大 2.5cm 差まで改善しました。関節可動域は 2 度目の術後 1 ヶ月時点では特に制限はありません。徒手筋力検査による筋力も著明な低下は見られませんでした。

【考察】

2 度目の手術から 10 ヶ月が経過したにも関わらず筋力値で左右差が大きく、術後の筋力回復が遅延している。膝周囲軟部組織の柔軟性を中心とした徒手療法により、PF 関節の内圧が低下したことで疼痛が軽減され筋出力の向上に至ったと考える。また、術後疼痛の持続により精神的要素を考慮した運動療法の選択も筋力改善に関与したと考える。

【今後の展望】

今回、関節周囲軟部組織の柔軟性を始めとした運動機能の改善が筋実質量の増加、筋力の改善に貢献することが分かった。今後も筋力改善のために、疼痛に応じた徒手療法、運動療法のさらなる選択が必要である。

【感想】

今回、初の県士会に参加させていただく機会を得ました。公の場での発表は特に緊張しましたが、先生方からの質問や意見を頂いたことや他の先生方の発表を聞いて、勉強になることが多々ありました。患者さんをみていく中で評価・治療がどれほど重要であるものが改めて理解でき、今後の理学療法に活かしていけるよう日々努めていきたいと思えます。